2016年度第65回　日本学連総会　資料

開催日時：2016年(平成28年) 11月19日(土曜日)16時30分
開催会場：天平の丘公園　秋山亭（栃木県下野市）

議題

1.	議長選出	
2.	今年度中間報告、昨年度決算報告	資料1,2,3
3.	日本学連事務局について	
4.	規約改正について	
5.	関東ロングセレのトラブルについて	
6.	全日本大会と地区学連ロングセレクションの融合について	資料4,5
7.	メーリスについて	
8.	インカレリレー特例措置について	資料6,7
9.	各部局活動報告	
10.	地区学連活動報告	
11.	次回総会について	

2016年度会計中間報告　10月13日時点　　2016年度日本学連会計　成澤　春菜　　2016/10/13

単位：¥

収入項目	単価	数量	金額	予算
加盟金				
個人(単価2000円)	2,000	1282	**2,564,200**	2,500,000
加盟校(単価4000円)	4,000	38	**152,000**	140,000
準加盟校(単価1000円)	1,000	9	**9,000**	14,000
賛助金				
2016年度賛助金			**36,500**	90,000
事業収入				
2015年度ICM＆R貸付金			**1,500,000**	1,500,000
2015年度ICM＆R黒字返金			**588,960**	900,000
地図関係				
地図関係			**0**	
その他				
関東学連から家賃として			**0**	50,000
利息			**58**	1,000
	小計		4,850,718	5,195,000

※1. ユニバーは2年に1度であり、2年に1度まとめて30万円を支出するが、
計算上は、1年に15万円を予算として計上することとなる。

※2. 活動報告書作成費は毎年25万円を予算として計上。
ただし、発行は2年に1度なので、2年に1度50万円を支出している。
今年度は発行年でインカレ後に動く予定。

幹事長	会計監査	会計監査

単位：¥

支出項目	詳細	金額	予算
インカレ関係			
2016年度ICM&R貸付金		**1,500,000**	1,500,000
部局活動費			
広報部		**0**	10,000
事業部		**0**	150,000
事務局		**0**	50,000
普及部		**0**	10,000
理事会		**0**	100,000
渉外部	矢板・日光地区挨拶まわり	**38,240**	100,000
技術委員会関係			
裁定委員会地図代		**0**	50,000
インカレアドバイザ派遣		**0**	
学連合宿補助		**0**	
ユニバー補助(※1)	オフィシャル補助など	**300,000**	150,000
幹事会関係			
印刷費	活動報告書作成費(※2)	**0**	250,000
幹事役員活動費	幹事会交通費	**564,182**	1,050,000
	幹事会宿泊費	**350,198**	500,000
	幹事会会場使用料	**5,710**	50,000
	資料印刷代	**0**	50,000
事務局維持費			
事務局維持費	家賃100000×12	**0**	1,200,000
地図関係			
地図作成費		※※	※※
その他支出			
JOA関係	年会費	**100,000**	100,000
	保険金	**3,000**	3,000
地区学連への賛助金フィードバック		**0**	25,000
ファミテックのインカレ広告費		**0**	20,000
手数料		**1,836**	5,000
	小計	**2,863,166**	5,373,000

2015年度会計決算報告

2016/11/19
2015年度日本学連会計　大久保　宗典

単位：￥

収入項目	単価	数量	金額	予算
加盟金				
個人(単価2000円)(※1)	2,000	1248	2,487,400	2,400,000
加盟校(単価4000円)	4,000	33	132,000	128,000
準加盟校(単価1000円)	1,000	17	17,000	19,000
賛助金				
2015年度賛助金			91,000	100,000
事業収入				
2014年度ICM＆R貸付金			1,500,000	1,500,000
2014年度ICM&R黒字返金			1,359,195	500,000
2015年度ICS&L貸付金(※2)			500,000	
2015年度ICS&L黒字返金			62,260	
地図関係				
地図収入			2,600,600	
その他				
関東学連から家賃として			50,000	50,000
山川さんより事務局家賃の返金(※3)			150,000	
ファミテックからの寄付			110,800	
利息			1,109	1,000
謎の黒字			340	
	小計		9,061,704	5,398,000

単位：￥

支出項目	詳細	金額	予算
インカレ関係			
2015年度ICS&L貸付金(※2)		500000	
2015年度ICM&R貸付金		1,500,000	1,500,000
インカレスプリントトロフィー代		69,120	
~~2016年度インカレミドル・テレインハント費用(※4)~~		~~500,000~~	
部局活動費			
広報部		0	10,000
事業部		199,985	200,000
事務局		39,330	50,000
普及部		0	10,000
理事会	理事会会場費	37,800	100,000
	インカレの際の河合会長の交通費	35,080	
	インカレの際の理事の宿泊費・弁当代	62,450	
	裁定委員用地図	5,000	
渉外部	渉外部長向け	43,257	100,000
	山川さん向け	68,980	
技術委員会関係			
技術委員会	技術委員会昨年度未清算分	0	60,000
インカレアドバイザ派遣		94,640	160,000
学連合宿補助(3万円×4)		16,800	120,000
講習会補助(1万円×3)		0	30,000
ユニバー補助(※5)	オフィシャル補助など	0	150,000
幹事会関係			
印刷費	活動報告書作成費(※6)	0	250,000
幹事役員活動費	幹事会交通費	1,202,615	650,000
	幹事会宿泊費	434,400	450,000
総会	幹事会会場使用料	7,830	50,000
役員活動費	資料印刷代	2,000	50,000
	その他(モデム郵送費)	620	
事務局維持費			
事務局維持費	家賃(※7)(単価50000円)	650,000	650,000
	光熱費	8,644	35,000
	電話代	52,353	55,000
旧事務局リフォーム代(※8)		150,000	
地図関係			
地図作成費	塩谷田所	1,600,000	
地図修正費	矢板テレイン	200,000	
	日光テレイン	200,000	
その他支出			
JOA関係	年会費	100,000	100,000
	保険金(※9)	3,000	0
地区学連への賛助金フィードバック		21,000	20,000
ファミテックのインカレ広告費		20,000	20,000
手数料(※10)		3,888	6,000
予備費		0	572,000
	小計	7,328,792	5,398,000

幹事長	会計監査	会計監査

2015年度の収支　　¥1732,912の黒字

2016 年 11 月 16 日
2015 年度日本学連会計　大久保宗典

2015 年度日本学連決算報告資料の注について

この度、2015 年度日本学連決算の承認をいただきたく、決算資料を総会に提出する運びとなった。今回は決算資料の注が多いため、資料とは別に本紙に注を書き記すものとする。決算資料と併せて適宜ご参照いただきたい。

※1．個人加盟金について
金額と加盟員数が一致していない。本来であれば、最低でも 2,496,000 円あるはずだが実際には 8,600 円の赤字である。とはいえ、既に 2016 年度になって半年以上、2015 年度の加盟費振込に関わったであろう日本学連ならびに各地区学連の担当者も役職を退いていることから、過去に遡って金額が合わないことを詮索するのは有効ではないと考える。
加盟員数と加盟金収入の金額の整合性がないのは一昨年度も問題になった部分である。一昨年度以前に関しては「地区学連が名簿を集約し、それに基づいて加盟金を支払う→日本学連が後追いで確認」という方法であり、地区学連の作成名簿と加盟金の振込額に整合性があるかどうかを事前に確認することは困難であった。一方、昨年度は「日本学連事務局で加盟員名簿を作成→これに基づいて地区学連に振込依頼→地区学連会計より日本学連に振込」という形に統一して加盟費徴集を進めた。それでも加盟員数と加盟金収入が合わないということで、本件については日本学連側にも責任があるとは思う。一方で各地区学連事務局・会計関係者の皆様にも、加盟員数と加盟金の金額についてよりいっそうの注意深い確認をお願いしたい。
なお、単価 2,000 円にもかかわらず端数が出ているのは、追加加盟費 200 円の影響である。

※2．2015 年度 ICSL 貸付金について
2015 年度予算には計上していなかったが、実行委員会から要請があったため運営資金として 50 万円を貸し付けた。既に返金済みである。

※3．山川さんからの家賃返金について
2015 年度第 3 回幹事会（2016 年 1 月開催）議事録 P51～P52 を見ればわかるはずなので、説明は割愛させていただく。当該箇所を参照されたい。※8 についても同様。

※4．2016 年度 ICMR テレインハント費用について
2016 年度春インカレのテレインハント費用は、2016 年度春インカレ運営資金用の貸付金 150 万円から、先に 50 万円を貸し付けたという認識である。したがって 2015 年度決算には含めず、2016 年度の会計に含める。

※5. ユニバー補助について
ユニバーは 2 年に 1 度であり、2 年に 1 度まとめて 30 万円を支出するが、計算上は、1 年に 15 万円を予算として計上することとしている。

※6. 日本学連活動報告書作成費について
活動報告書作成費は毎年 25 万円を予算として計上。ただし、発行は 2 年に 1 度なので、2 年に 1 度 50 万円を支出している。

※7. 日本学連事務局家賃について
2015 年度までは、事務局家賃は 12 か月分+更新料 1 月分の合計 13 か月分（一月あたり 50,000 円）。2016 年度より日本学連事務局は山川ハウスに移転したため、今年度以降はこの限りではない。

※8. 旧事務局リフォーム代について
2015 年度まで日本学連事務局として使っていた部屋のリフォーム代。2016 年 1 月の幹事会で決済済みである。山川さんによれば、端数は大家負担とのことである。

※9. JOA への保険金について
JOA に問い合わせたところ、「オリエンテーリング競技の際に、第 3 者の所有物に損害を与えた場合（家屋を傷つけた・あぜ道や耕作地を荒らした等）に備えた賠償保険」とのことであった。JOA の各会員から 3,000 円ずつ徴収しているとのこと。
JOA の方からいただいた回答を以下にそのまま転載する。

JOA では団体用賠償保険に 1 年単位で加入しており、
各会員様から毎年 3,000 円を賠償保険料として均等にご負担頂いています。

こちらの保険料は実際に賠償保険を利用した実績に応じて
翌年以降変動する可能性があるため、状況によっては
今後保険料の変動（値上げ、または値下げ）が生じる可能性があります。

※10. 手数料について
2016 年度に入ってから精算を行った 2015 年度分の経費に関する手数料を含む。

以上

これからの全日本大会について

文責：小泉知貴(日本学連幹事長)

【はじめに】

9/5~9 にかけて YMOE 社の山川様が全日本大会のプロデューサーに就任したことを受けての演説が発表され、9/10 に開催された日本学連幹事会において、全日本大会と地区学連セレクションの融合についての議論を行いました。結論としましては、幹事会の方針としてこの提案を受け入れることとし、今後全日本大会で地区学連セレクションを開催できるような枠組みを作成していくことになりました。また、同時に公認大会やクラス分けなどについて、JOA から「新しい形を学生側から提案していってほしい」とのお言葉をいただきました。そのため、セレクションを開催する枠組みにとどまらず、全日本大会に関わる全てについて、広く改革を行うために様々なことを検討していくことが必要であると思います。

途方もない話で、今後どのように進めていくべきなのか、わからないかもしれません。正直に言いますと、幹事長である私自身も何から手を付けていけばいいかわかりません。ですが、いわばこれは山川様が私たちに、「新しく全日本大会をプロデュースする機会をくださった」と解釈するべきなのだと思います。今までの全日本大会がどうあったのか、何が問題だったのか、今後学生にとっても魅力的な大会であり続けるためにどのようにするべきか、学生全体で考えていきましょう。

【現状の全日本大会】

〇全日本大会の抱える問題について

オリエンテーリングは、決して多くはない競技者数ながらも生涯スポーツとして多くの人に愛されております。普通のスポーツに比べて渉外しなければいけないことが多く、地図作成の手間や、全国各地に競技者が散らばっていることなど、非常に多くの問題を乗り越えながら今日まで続いてきました。これは一重に、競技者同士の密接な協力が欠かせなかった事かと思います。その中で、JOA の主催する全日本大会は、あらゆる年代の人たちが一堂に集って競うという、日本を代表する大会でした。

しかし、地域持ち回りで行われてきた全日本大会の運営、特にロング競技の地図作成には途方もない労力がかかっている一方、参加者数はそれに見合うほど多くはなく、とうとう次の全日本大会を開催するために手をあげてくれる県協会はいなくなってしまいました。つまり、次の全日本大会はこのままだと開かれない、ということです。このままでは長く続いてきた全日本大会がなくなってしまうということになります。

これに対し、JOA は地域持ち回りをやめて JOA 管轄で全日本大会を開催することにし、そのビジョン策定をプロデューサーに委ねることにした結果、応募してきてくださった山川様がこの役を担うことになりました。その山川様が提案したことが、「現在日本のオリエンテーリング界の半数以上の存在である学生たちの力を借りて、全日本大会を盛り上げていこう」というものでした。具体的には、全日本大会で地区学連セレクションを開催する、という方法です、詳しくは後述します。

長くなってしまいました、簡単にまとめると、

・今までのような地域持ち回りではもう開催しようとする県協会は存在しない、これからの全日本大会は開かれなくなってしまう

・JOA は解決策として全日本大会のプロデューサーを募集、山川様が就任

・学生の力を借りて、全日本大会を再び盛り上げようとする動き出し

となっております。

長い文章とはなってしまっていますが、極めて重要な内容でありますので、是非最後まで目を通していただけると幸いです。

〇今の全日本大会のシステム
※規約を読み、今後システムの改革などで関係してきそうな部分について抜き出してみました。私個人では把握しきれないところも多くありますので、アドバイスや修正点を指摘していただけるとありがたいです。

・運営
　かつては地域持ち回りで県協会が主体となって動いていたが、現在はJOAが主催をし、運営主管は都道府県会員及び理事会で承認された団体に委ねることができる、となっている。また、選手権クラスの参加費は規約によって決まっている。

・公認大会との関係
　JOAの定款第4条2項に基づいて開かれる。競技形式、クラス、参加費等によってカテゴリわけがされ、
カテゴリA…クラス分け、参加資格等、一定の統一基準に基づく大会、JSOM適用(公認料30000円)
カテゴリB…基準に従って開催される大会、JSOM適用(公認料10000円)
カテゴリS…基準に従って開催される大会、JSSOM適用(公認料5000円)
となる。主催者はJOAか、JOA加盟都道府県協会・団体、正会員が所属するクラブ等の団体、JOAが開催を認めた団体(要は基本的には加盟していればOK)となっている。
　開催のためには以下の要件を満たさなければならない
　　・運営責任者および競技部門の主要部にオリエンテーリング・ディレクタを配置
　　・運営とは独立した大会コントローラを配置、JOAにコントローラ登録されていると望ましい
　　※コントローラは講習会、研修会を受講して認定試験を合格して資格を認定されることが必要
　　・カテゴリAにおいて、普及を目的とするフィットネスOを併設することが望ましい
　+公認料を開催一週間前に納める、開催6か月前の申請(B,Sは仮申請で3か月前まで)・報告書等の提出が必要

・全日本E権について
　インカレで選手権が存在するように、全日本大会にも選手権クラスが存在する。しかし、その資格は学生のようにセレクションという機会が具体的に与えられているわけではない。強いて言うなら、公認大会がそれに該当することになる。そのため、全日本大会で選手クラスを走るためには、まず公認大会の選手権資格を取得し、その上で基準を満たす必要がある。
　以下は、各選手権の資格の取得条件である。

日本オリエンテーリング選手権
M/W21E　(1) JOA 強化選手(A または B)に指定されている者
　　(2) 前年度全日本大会（ロング）　M/W21E 10 位(5 位)以内
　　(3) 当年度公認大会[A] M/W21E 20 位(10 位)以内
　　(4) 当年度公認大会[B] M/W21E 10 位(5 位)以内

M/W20E　(1) JOA 強化選手(U-20)に指定されており、かつ強化委員会が出場を認めた者
　　(2) 当年度公認大会 M/W21E 有資格者で 20 歳以下の者
　　(3) 当年度全日本大会（ミドル）　M/W20E 10 位以内の者
　　(4) 当年度公認大会[A] M/W21A 10 位以内で 20 歳以下の者
　　(5) 当年度公認大会[A] M/W20A 10 位以内

（当該クラスがない場合、20 歳以下を対象とした最上位のクラス）

(6) 当年度公認大会[B] M/W21A 5 位以内で 20 歳以下の者

(7) 当年度公認大会[B] M/W20A 5 位以内

（当該クラスがない場合、20 歳以下を対象とした最上位のクラス）

公認大会選手権

＜上期（4～9 月）開催の大会＞

M/W21E (1) JOA 強化選手(A または B)に指定されている者

(2) 前年度全日本大会（ロング） M/W21E 有資格者

(3) 前年度全日本大会（ロング） M/W21A 10 位以内

(4) 前年度全日本大会（ロング） M/W20E 5 位以内

(5) 前年度 2 月以降、開催 2 カ月前月末までの公認大会[A] M/W21E 20 位(10 位)以内

(6) 前年度 4 月以降、開催 2 カ月前月末までの公認大会[A] M/W21A 5 位以内

(7) 前年度 2 月以降、開催 2 カ月前月末までの公認大会[B] M/W21E 10 位(5 位)以内

（E クラスがない場合は最上位のクラス）

(8) 前年度 4 月以降、開催 2 カ月前月末までの公認大会[B] M/W21A 3 位以内

＜下期（10～3 月）開催の大会＞

M/W21E (1) JOA 強化選手(A または B)に指定されている者

(2) 前年度全日本大会（ロング） M/W21E 有資格者

(3) 前年度全日本大会（ロング） M/W21A 10 位以内

(4) 前年度全日本大会（ロング） M/W20E 5 位以内

(5) 前年度 2 月以降、開催 2 カ月前月末までの公認大会[A] M/W21E 20 位(10 位)以内

(6) 前年度 10 月以降、開催 2 カ月前月末までの公認大会[A] M/W21A 5 位以内

(7) 前年度 2 月以降、開催 2 カ月前月末までの公認大会[B] M/W21E 10 位(5 位)以内

（E クラスがない場合は最上位のクラス）

(8) 前年度 10 月以降、開催 2 カ月前月末までの公認大会[B] M/W21A 3 位以内

＜その他＞

順位は各クラスのエントリー数の 1/2 以内(10 人しか参加していないから完走すれば全員資格取得、というようにはいかない)まで、また順位以内であっても優勝時間から 150%を超えた場合は適用対象外となる。

＜地区学連盟主催大会の特例＞

日学・地区学連主催の選手権大会が公認大会と共同開催されて学生専用クラスが設けられる場合は、以下のような特例が適用される。(当該年度全日本大会のエリートクラス出場権を与える)

選手権 6 位以内→21E　選手権クラス有資格者で 20 歳以下→20E　新人クラス 3 位以内→20E

＋地区インカレ　選手権クラス 2 位以内→21E　選手権クラス 5 位以内で 20 歳以下→20E

・クラス分け

基本的なクラス分けは、性別・年齢・コース難易度・距離を基本として大会の規模を考慮しながら設定される。年齢は当該年度内に到達する年齢が基準。具体的には、

E…エリートクラス、公認大会などでは出場資格が必要、21E とジュニア対象の 20E

21A…19 歳以上の競技者が参加可能
20A 以下…学年(小学校、中学校、高校生、大学 12 年生)を基本で分ける

【今後の全日本大会】
〇山川様の提案
　先にも述べましたように、山川様の提案したことの骨子は、「全日本大会と地区学連セレクションを融合する」といったものでした。具体的な山川様の提案した内容をまとめますと、以下のようになります。

＜具体的な方法＞
・早い段階でのテレインコントロールを行い、来年・再来年の全日本大会候補地を今からクローズする
・ここから二年間のセレクションを 6 月の第三週に行われる全日本大会と統合する
・公認大会がセレクション予備レースとなり、公認大会の活性化に
・開催地が遠い等の問題がある場合は、セレクションを二回開催にする
・選手権者数 60：30 はうまく収まりきらない恐れがあるので、今後議論が必要
・全日本 21E 権所有者は、セレクション免除して全日本 21E を走ってもらう
・全日本 20E 権所有者は、セレクションを走ってもらう。実際にはセレクションクラスを 20E で開催。
・改革によって生じるグレーゾーンは基本的に拾い上げる方針(技術委員会が評価)
・参加費は学生の地区学連セレクション並み

〇幹事会で決議したこと
　多くの学生の皆様からのこの提案に対する意見を受け、幹事会に出席された JOA の木村様との協議の結果、以下のような決定を行いました。

・基本的には、この提案を受け入れる方針
・全日本大会でセレクションを開催するという判断は、その都度地区学連に委ねられる(JOA としてはお願いをするのみ、強制ではない)
・平成 28 年度全日本大会での全日本 21E 権所有者はセレクション免除というのは拒否(公示の時期が遅かったことと全日本大会までの公認大会の少なさから)
・参加費はなるべく安く抑えてもらう
・今後、公認大会の在り方やクラス分けの方法について、学生側から JOA に提案していく
・平成 27 年度の年度末を目安に、JOA との協議を重ねながら規約類を整えていく

〇幹事会で問題とされた事柄について
　基本的には受容すると決定したものの、提出された学生の意見から、以下の事項についてはまだ検討の余地があると思われたことをここにあげておきます。これらの件につきましては、今後も幹事会などを通して、議論を詰めていく方針です。ですので、意見などをよろしくお願い致します。

・セレクションが複数行われることで、インカレやセレクションの価値が薄まってしまうのでは？
・全日本大会への参加がセレクションのためとなってしまい、消極的になってしまう
・地区学連に対して強制をしないと、セレクションを開催しないという選択をとってしまい、何ら問題が解決しなくなるのでは？
・公認大会の数がすぐに変わるとは限らないが、全日本 21E 権所有者のセレクション免除はいつから適用す

るか
・学生 OB が全日本大会の運営に関わるタイミングはいつになるか

　これに加えて、いかに規約を修正していくか、実際にセレクションを全日本大会で開催をするとして細かい決めごとをどのように作るか、今後議論していきます。

〇学生が全日本大会に参加するようになるには？
　以上のようなことを踏まえて、学生が全日本大会に参加したくなるような魅力を提案していくことを JOA から求められています。セレクションを開催できるように修正する必要がある枠組みについては後述するとして、「今後の全日本大会をプロデュースする」という面からどのようなアプローチができるか検討してみたいと思います。
　先の幹事会までに、多くの学生の意見をいただきました、改めてご協力ありがとうございました。その上で、学生が全日本大会に興味を持ちづらい理由は以下のようなものが多かったように感じます。

・選手権クラスなどの仕組みがよくわからない
・全日本 E 権をとるためには実質公認 E 権を取得しなければならず、門が狭い
・公認大会が地方開催となり、「お金を出せば E 権を買える状況」というのが好ましくない
・参加費が他の大会に比べて割高
・インカレなどとは異なり、特別な演出などが行われないため、「規模が大きめの大会」レベルの認識で、特別性がない
・時期が年度の切り替わるタイミングで、参加しづらい

他にもいろいろとありますが、私の印象に残ったのは以上のものでした(他にも意見がありましたら、ぜひください)
　この中で、「参加費」と「開催時期」については山川様の提案によって改善されることになると思います。「選手権クラスの仕組み」「公認大会の地方開催」については、新しい仕組みがうまく回り出したら少しずついい方向に向かうことが見込まれ、また日本学連としましてもその動きを推進するアプローチは必要です。
　これらに対し、「全日本 E 権取得への道のりの長さ・少なさ」「規模が大きい大会と変わらない」という点については、なにか具体的な提案をすべきかと考えました。というのも、「全日本 E 権を取得するための公認大会の数が少なく、遠くで開催されるために参加しづらい→公認大会が敬遠されてしまい、E 権取得のチャンスやそもそもの興味の減衰→現在誰が E 権を持っているかも把握されなく、学生とはあまり関係のない物のように感じてしまう→応援などに力を入れるのではなく、全日本大会に参加しても各々のレースのみで満足してしまう」という流れがあるように感じるからです。もちろん、近年の全日本大会にこのような演出ができるほどの余裕がなかったことや、スタート時間とかとの兼ね合いもあるとは思いますが、この理由も存在している可能性はあると思います。

〇提案していくべき内容について
　現在私が考える、全日本大会に対して日本学連が提案すべき内容は以下のようになります。これらをベースに、他に JOA に提案すべきこと、または別の提案の仕方、そもそもそのような提案をすることは間違っているなどの意見をいただきたいと考えています。

・E 権取得の機会を増やす

学生がE権を取得できる機会を増やすことによって、全日本大会をより身近なものと感じてもらうことが目的となります。全日本E権の価値がこれによって変わってきてしまう恐れはありますが、提案する価値はあると考えられます。

具体的な案としましては、地方だけではなく参加しやすい範囲での公認大会を増やす、学生が公認大会を開くためのハードルを下げる、インカレ選手権・地区セレクション上位でE権取得が考えられます。参加しやすい範囲での公認大会は、今後山川様の提案がうまく回れば、解決できる問題の一つなので省きます。

学生が公認大会を開くことは、確かに開いている学生自体は公認大会に参加することができずにその機会を一度ふいにすることになりますが、都道府県からの推薦や技術委員会の審査などを組み合わせることで、主催した学生にもチャンスを与えることができます(ここは今後要検討事項)。それよりも、学生は比較的相互に学生大会に参加することが多いため、全日本大会を身近に感じるという観点では、大きな効力を持つ可能性があります。

最後に、インカレや地区セレクションで全日本・公認E権を取得できるようにするということについてです。より具体的には、インカレ選手権上位6名は全日本21E権を取得する、地区セレクション上位2人は公認21E権を取得できる、というものです。これは、「学生連盟主催大会の特例」という、公認大会エリートクラス出場資格規則というものを準用した考えで、本来であればインカレや地区セレクションが公認大会と共催される場合に適用されるものです。これを、公認大会と共催の場合以外でも適用することができないか…？という提案になります。

すべてとは言わずとも、これらの提案が少しでも通れば、学生にとってE権が身近なものになると思います。というわけで、検討の方をよろしくお願い致します。

・クラス分けについて

とあるOBの方が、山川様の提言で「20Eクラスを用いてセレクションを開催する」ということに対し、「ジュニア選手権の在り方が変わってしまう」と意見をしていました。しかし、同時にJOAの方からは、「現状20/21を分けているのは北欧の風習をそのまま真似しただけであり、日本のシステムにはあっているとはいいがたい、これからは修正していくべき」という意見もありました。

ここについては意見の分かれる所かと思いますが、現状の20/21の分け方にするか、他のクラス分けは中学/高校と分けられているのだから一般的な4年制大学を基準として22/23というわけ方にする、ということも考えることができると思います。こちらにつきましては、皆さんがどのように考えているのかが知りたいので、意見がほしいです。よろしくお願い致します。

【修正すべき規約】

こちらでは、「セレクションを全日本大会と融合する」という点について、修正や検討すべき規約についてあげていきたいと思います。

〇日本学連関係

・日本学生オリエンテーリング選手権ロング・ディスタンス競技 競技者数及びその配分に関する規則

2条3項新設「全日本大会21Eの権利を持っているものは1項の競技者数とは別に出場資格を得る」

5乗1項改訂(5条については、まだどのような形で全日本大会においてのセレクションレースを置くかが決まっていないので、どのような条文になるかはわかりません。しかし、改訂の必要はあります。)

〇地区学連関係

・各地区ロングセレ実施規則

第１条目的？「全日本大会でセレクションを行わない場合に、この規則を適用する」
(細かい諸々を検討し始めるときりがないので、これを付け加えることで大幅に修正の必要が減るかもしれない)

これをやらない場合は、主管、開催日程、開催場所などの修正は必要、これについては今後相談
セレクション免除者「前年度インカレロング入賞者、全日本 21E 権所有者」

〇JOA 関係
・公認大会エリートクラス出場資格規則
全日本大会や公認大会のエリートの基準に、インカレ入賞者などを加える？
Or 第 4 条の特例という部分を排除してしまう

・日本オリエンテーリング競技規則および関連規則類の運用に関するガイドライン
5 条のクラス分けについて、今後の話し合いで改定が必要
6 条の出場資格などについても検討が必要

・日本オリエンテーリング選手権実施基準
4 条 2 項「また、学生のセレクションクラスも設ける」
4 条 4 項「12 月ごろ？までに決定」
7 条(20E で開催するのなら)「学生セレクションクラスの料金について付言」

その他、話し合いに進捗によって改正が必要な規約有り
(話し合いを進められていない現段階では改訂すべきかわからない)

【最後に】
　結局長くなりすぎてしまいました、ここまで読んでくださった方々はありがとうございます。まだ話し合っていない部分も多く、手探りの状況少しでも打破できればと思い文章を作ってみたものの、やはり決められない部分が多くあるように感じました。逆に、どこを話し合うべきかは少しわかってきたため、次回の幹事会で話を詰めていきたいと思います。そのために、話し合いの材料として、少しでも学生の意見を参照にしたいです。是非積極的に意見を出していただきたいです、よろしくお願い致します。

全日本大会についての議論内容

文責：小泉知貴(日本学連幹事長)

【はじめに】

YMOE の山川様からの提言を受けて、9 月に行われた第 2 回幹事会にて、全日本大会で地区学連ロングセレクションを行うための枠組み作りを行うことを決定いたしました。来年の全日本大会からこの制度を適用するためには、例年通りの間隔で幹事会を行ったとしても、年度末までに議論を仕切ることはできない、との判断をし、10/9 に臨時幹事会を行いました。第 2 回幹事会からあまり日がたっていない中での幹事会となってしまいましたが、加盟員の皆様からのたくさんの意見や、幹事の皆様、JOA の木村様の多大なるご協力の下、この臨時幹事会で議論を大きく進めることができました。まずは、そのことについてお礼を申し上げたいと思います。

今回の幹事会の議論内容を簡単にではありますが、まとめてみました。決定した事項についてはできる限り記載してあるつもりです。来年度以降のセレクション、全日本大会の在り方を決めるための重大な議論となっていますので、なるべく多くの方に読んでいただきたいです。ご協力よろしくお願い致します。

【第 2 回幹事会で決定したことの確認】

・基本的には、山川様の提案を受け入れる方針
・全日本大会でセレクションを開催するという判断は、その都度地区学連に委ねられる
・2017 年度全日本大会での全日本 21E 権所有者はセレクション免除というのは拒否
・参加費はなるべく安く抑えてもらう
・今後、公認大会の在り方やクラス分けの方法について、学生側から JOA に提案していく
・2016 年度の年度末を目安に、JOA との協議を重ねながら規約類を整えていく

〇幹事会で問題とされた事柄について

・セレクションが複数行われることで、インカレやセレクションの価値が薄まってしまうのでは？
・全日本大会への参加がセレクションのためとなってしまい、消極的になってしまう
・地区学連に対して強制をしないと、セレクションを開催しないという選択をとってしまいのでは？
・全日本 21E 権所有者のセレクション免除はいつから適用するか
・学生 OB が全日本大会の運営に関わるタイミングはいつになるか
・インカレ選手権の出走者の数の調整の必要性について
・ジュニアチャンピオンクラスである 20E の今後の在り方について
・E 権によるセレ免除に納得できる公認大会の在り方

【臨時幹事会議論内容】

〇問題点に対する議論

まず、臨時幹事会では上にあげた問題点について加盟員からどのような意見が出たのかをまとめた後、それに対しての議論を行った。以下にその内容を記す。

・セレクションが複数行われることで、インカレやセレクションの価値が薄まってしまうのでは？

＜意見＞

来年の融合を実際にやってみて、その上で決定するべきである。

セレクションと全日本を同時に行うと、結局全国から人が集まるので、インカレをしていることと変わらなく

なってしまう。
(セレクションが)複数行われたとしても、場所が遠い場合もあるのでそこまで問題があるようには感じない。

＜幹事会の結論＞
　インカレやセレクションの価値についての言及はあまり多くないように感じた。ある程度の価値観が変わってしまうことについては、全日本大会の立て直しという大きな目標のためには仕方がないと考える。また、セレクションが複数行われるという点については、(特に四年生だが)6 月には就活があったり、8 月には院試があったりと、時期によって個人の事情が介入することを考えると、むしろメリットが大きいと思われる。
　人が全国から集まるとしても、セレクションのクラスを分割することはできるし、全ての地区学連がセレクションを開催するわけでもない(また、現状複数学連が同日同場所でセレクションを行っている例は複数ある)。遠隔地の場合は必ずしも全員が参加できるわけではない(特に北海道や広島方面からはそのような声が多かった)。なので、必ずしもインカレをしている、ということにはつながらないと考える。

・全日本大会への参加がセレクションのためとなってしまい、消極的になってしまう
＜意見＞
全日本の価値が変わってしまうのは、立て直しのためにはある程度は仕方ないのではないか。

＜幹事会の結論＞
　まず、この措置はあくまで「全日本大会の延命措置」であることを理解していただきたい。そのため、価値が変わってしまったとしても、開かれないよりはましであると考えられる。価値についての議論は、全日本大会が立ち直りを果たしてからの話である。

・地区学連に対して強制をしないと、セレクションを開催しないという選択をとってしまいのでは？
＜意見＞
結局学生はセレクションのために参加することになる。全日本大会とインカレの類似性が保たれるようなテレインコントロールをするべき。
セレクションは、その地区の学生が参加しやすいことが最優先になるべきである。
ある程度地域の持ち回りを設定するべきでは。
強制にするのはやめてほしい、遠隔地でのセレクションは負担が大きすぎる。
強制されなくとも、その地域で全日本大会が開催されればどちらにしても参加する。

＜幹事会の結論＞
　確かに、なんらかの制約を設けないと、この改革がうまく機能しない可能性もあると考えられる。しかし、JOA 側としては、むしろどこの学連もセレクションに使わないような提案をしてしまった全日本大会のプロデューサーに責任があると考えている。そもそも地域の持ち回りをやめて JOA 管轄でプロデューサーを設けたのは、無理に遠隔地で開催した結果、多くの人にとって参加しづらくなり、実際に首が回らなくなったからである。プロデューサーは多くの人が参加しやすく、かつ品質のいいものを提供することで、参加者を集められるようにするべきである、という説明を頂いた。そのため、今後の開催地は人が集まりやすい地区で開催されるようになると考えられる。
　以上の話を受けて、幹事会としてはどの地区に対しても強制をしないことにした。幹事会がやることとしては、全日本大会の開催地が確定したら、プロデューサーの方からその開催地を幹事会に提出していただき、その内容を受けてセレクション開催を検討すべき地区を指定する(全日本大会側からの誘致、と解釈)。その地区学

連は、地区学連総会にて、実際にセレクションを行うか議論していただく、という形にする(それ以外の地区学連は、必要があるのであれば地区学連総会で任意で議論)。

全日本大会の開催地をインカレと連携をとらせる、ということについては、実際にテレインの類似性を意識している人は多くはないと考えられた(実際、今年度のインカレのためのセレクションは関西では嶽山、東海では鳥追窪など、要求されるものが正反対のテレインで行われている。おそらく、強く意識をしているのはテレインの種類が豊富な関東の一部のみ)。そのため、これを理由に全日本大会やインカレの開催地を決定する、ということについての優先順位は低い。

来年度の矢板全日本については、関東と北東学連はセレクション使用を検討していただきたい(北信越は完全に任意である)。

・全日本 21E 権所有者のセレクション免除はいつから適用するか

＜意見＞

全日本 21E 権をとりに行くための走りと、セレ通過をするための走りは別物ではないか。

＜幹事会の結論＞

時期としては、すでに公示によって平等性は保たれていると考えられるため、2018 年度から運用することとする。

この制度の目的は、日本一位を決める大会にその実力を持っている人が心置きなく出場できるように、ということであって、あくまで例外としての制度である。しかし、今後全日本 21E 権所有者が非常に増えてしまうことで、インカレのセレクション免除者が多くなりすぎる可能性も考えられる。その場合は、全日本 21E 権所有者でセレクション免除を適用する人数に上限を設ける(数字、技術委員会の判断、年齢別ランキングの適用)、全日本 21E 権の取りやすさを変える、などの措置も考えられる。しかし、これはまだ制度を実際に運用しないとわからないことであり、今すぐ議論をする必要があることではない。柔軟に行っていく余地を残す、という意味でも、「将来的にこのような方法をとる可能性がある」にとどめる。

・学生 OB が全日本大会の運営に関わるタイミングはいつになるか

＜意見＞

事前に連絡してもらえるのであれば、あまり問題はない。

セレ二本制を適用するとなると、OB の運営負担があまりにも大きくなる可能性がある。

＜幹事会の結論＞

確かに、その地区で二本制にすると、OB の負担は非常に大きくなってしまうことが考えられる。しかし、実際には運営の中心はプロデューサーに対して委託されているのであり、OB は当日の運営役員に駆り出される程度にとどめられる。そのため、負担はそこまで大きくなりすぎることはない。

時期については、プロデューサーがどのように動くのか、ということが重要になる。おそらく、開催のおよそ 1 年前にアウトラインが完成するため、それから呼びかけることになる。故に、「その地区の OB は全日本大会の運営に呼ばれる可能性がある」という認識をしていただく程度にとどめる。

・インカレ選手権の出走者の数の調整の必要性について

<意見>

変える必要は今のところ感じないが、全日本 21E 権による免除者があまりにも増えたのなら、変えることを検討すべき。

＜幹事会の結論＞
　先ほど議論した内容を準用する。

・ジュニアチャンピオンクラスである 20E の今後の在り方について
＜意見＞
20E 権の対象者も、21A にでて 21E をとりに行きたくなってしまい、存在が形骸化してしまうのでは。
20E 権は学生の間でとってもすぐに権利が消えてしまって有効に使えないことが多い、学生の間中持っていられるようなクラス分けの方がいい。

＜幹事会の結論＞
　現状の山川様の提案は、20E クラスの中にセレクションクラスを組み込む、という形であった。幹事会としてはこれに対しては反対であり、セレクション専用クラスを用意してほしい、という結論を出した。
　その上で、20E という基準の必要性について議論がなされた。ジュニアチャンピオンクラスとして考えるのであれば、18E などを新しく作った方がいいのではないか、という意見があった。そもそも、前回の幹事会で指摘されていたように、20/21 という区分けは欧米の軍事制度などをそのまま持ち込んだものであり、日本の学生制度に必ずしも適しているとは言えない。しかし、18E を作ってしまうと、中高生が大学生と戦う機会がなくなってしまう。とはいえ 20E があると、セレクションクラスとどちらに出ればいいのかわからなくなる人が出てしまう。
　なので、今回の幹事会では「20E を 18E に引き下げる」という程度にとどめることとし、中高生などの意見も聞きつつ、今後結論を出していきたいと考えている。

・E 権によるセレ免除に納得できる公認大会の在り方
＜意見＞
公認大会の数はあまりにも増やすべきではない、現状の全日本 21E をとるのが難しいという状況を維持するべき。
公認大会ごとで全日本 21E 権などの取りやすさが変わってきてしまうので、セレクション免除をすることは反対。
現状公認大会の数が少ない、公認大会開催の基準を引き下げたりすることはできないか。
今回の公認大会(中日東海・青い森)のように、同日に別の場所で公認大会が開催されると、人の分散によって全日本 E 権がとりやすくなってしまう。
公認大会を運営する側から見れば、やはりチャンスが一回減るのは不都合である。
全日本 21E 権所有者がかなり増えてしまうのであれば、その在り方についても直していくべき。

＜幹事会の結論＞
　まず、前提として公認大会とは、JOA から品質が保証されている大会のことであるということを共有したい。そのオペレーションが必要になるために、コントローラーを置く、経費を JOA に納めるなどの必要がある。そして、JOA としては、今後公認大会をどんどん増やしていきたいと考えている。
　しかし、現状では、公認大会は参加者を一定数確保できるというメリットはあるものの、失敗したときの非難のされ方や、余計な費用が掛かったり、守らなくてはならない細則が多かったりと、主催者側からはデメリットの方が大きく見えてしまう。これについては、JOA 側に一度このような意見が出ている、ということを持ち帰っていただくことになった。
(今後公認大会の数が非常に多くなってきた場合は、セレクション免除者の議論と同様、このシステムを改善す

る必要があると考えられる。ただし、それは今すぐ議論する必要はないことであると考えられる。)

※幹事会で出た新しい疑問
全日本 21E 権を持っていても、全日本 21E にでない、という選択肢をとった場合のセレ免除はどうなるか?
→全日本 21E 権をとる実力を認めて、セレ免除は適用、という結論が出された。

〇JOA に対する提案
・インカレ選手権と全日本 21E・公認 21E の互換性について
　全日本大会や公認大会とインカレや地区インカレが併設で行われた場合にはインカレで好成績を残した場合、全日本 21E と公認 21E を取得できるとの規約が存在する。具体的には、
　　インカレ選手権 6 位以内→21E　選手権クラス有資格者かつ 20 歳以下→20E　新人クラス 3 位以内→20E
　　地区インカレ選手権 2 位以内→21E　選手権クラス 5 位以内かつ 20 歳以下→20E
となっている。これを、「併設」という条件を取り払うことはできないか、という提案。公認大会などでいい成績を残したらインカレのセレクションが免除されるのであれば、逆も可能ではないか、という発想である。これにより、「インカレで活躍した選手が、全日本という舞台ではどのような戦いを見せるのか」という観点から、学生からも今まで以上に全日本大会への注目度が上がる効果も見込まれる。
　そもそも、この規約はわりと最近にできたが、それは学連が JOA に加盟する前であった。現在は学連も JOA の一部なのであるのだから、この提案について何ら問題はないとのことであった。
　そのため、次回幹事会では具体的な順位や種目の跨ぎ方(インカレミドルの成績を全日本ロングにも適用するか、など)について議論を行う。そのため、加盟員からも意見を積極的に出していただきたい。

・クラス分けについて
　上記にあるように、20E をどのようにするか、という議論はまだ十分なされているとはいいがたい。中高生の意見も集めつつ、次回幹事会でより具体的な提案をできるように準備をする。

・公認大会の基準について
　現状、学生大会で公認大会として定期的に開催しているのは京大京女大会程度である。これを、今後公認大会の数を増やしていくためにも、現在の公認大会の基準を少し緩和するようなことはできないか、提案することを考えた。
　ただ、公認大会については、上述のように、一度 JOA の方に持ち帰っていただくことになっている。その返答次第で、今後話を詰めていく。

・演出について
　全日本大会が注目されないのは、日本一位を決める大会であるにもかかわらず、インカレのような演出がないからだ、という意見があった。これを踏まえて、何か演出を増やすことができないか提案しようと考えた。
　演出を増やすという意見が出されることには何ら問題はないそうだが、現実性についてはまた別問題である。どのような演出を学生は求めているか、次回幹事会まで意見を集めたい。

〇規約修正について
　日本学連の規約については、直すべきものはあまり多くなく、むしろ地区学連の方が直すことは多いと考えられる。特に、今後必要になってくると考えられるため、セレクション二本制に耐えられるような規約整備をしていくことを推奨する。

今回の議論で具体的な形は決まってきたが、急いで直さなければならない規約も多くはないため、今回はあまり議論をしなかった。また、今すぐなおそうとしても、今後実際に運用してみていろいろ変わってくるところも多くあるのだから、柔軟性を持たせるべきとの意見もあった。

【これからの流れについて】

11 月の日本学連総会では、加盟員に対して 9 月、10 月と議論してきたことについての概要と、今後すべきことを説明する。加えて、直接意見を聞けるような場にもしたい。また、並行して 10 月末〜12 月のどこかで JOA の方と直接話し合いをする場を設けたいと考えている。

1 月の幹事会では、今回の幹事会を受けてでてきた意見や反論などを確認し、幹事会の決めた方針で問題のないところは具体的に決めてしまう。問題の残っているところは、なるべく反論やそれに対する幹事会の意見などをまとめる。2 月中にはメーリス上で微調整をすれば済む程度までまとめ切る。

2 月はメーリスなどで最後の調整を行う。また、規約改正案を完成させ、提示する。

3 月の幹事会で最終調整後の確認、総会に対してどのように提案するか形をまとめ、3 月の総会に提出、決議を行う。また規約改正の決議も同時に行う。

以上を受けて、最終的には正式に JOA に対して提案という形で、意見を送る。

【加盟員から意見を求めたいこと】

今回の幹事会で、「全日本大会とセレクションの融合」について、おおむねの具体的な形は見えてきたと思われる。なので、ここについて疑問点や、要望などがあったら積極的に声をあげていただきたい。

また、これからの全日本大会に対する提案についてはまだまだ議論の余地がある、この点についての意見を特に広く集めたいと考えている。ご協力、よろしくお願い致します。

・20E を 18E に引き下げるという意見について(中高生からも意見を求める)
・インカレ選手権と全日本・公認 21E 権との互換性について
・全日本 21E で行ってほしい演出
・その他、具体的なセレクションとの融合に対する意見

【まとめ】

長くなってしまいましたが、山川様の提案から、二回行われた幹事会の内容をまとめると、このような形になると考えられます。

・前提として、今回の改革の趣旨は、全日本大会を立て直すための延命措置である。
・全日本大会において、地区学連セレクションを開催する。対象となる地区学連は、幹事会が全日本大会の開催地から判断して指定をし、最終的な決定は地区学連総会が行う(強制で行わせる、ということはない)。2017 年度全日本大会では、関東と北東学連で話し合ってきていただきたい。

※指定された学連以外もできることなら積極的にセレクション利用についての議論はしていただきたい。

・開催地が遠い、テレインの性質がインカレテレインとあまりにも違う、等の事情に耐えうるよう、なるべく各地区学連はセレクション二本制に対応できるように規約を改正する。
・全日本 21E 権所有者は、セレクションを免除し、全日本 21E を走っていただく。この適用は 2018 年度からである(ただし、全日本 21E を走らなければ免除にならない、という意味ではない)。
・全日本大会は原則 6 月の第三週に行う。中心的な準備はプロデューサーが行い、当日の運営の手伝いを当該地区学連 OB がなるべく手伝うようにする。

・セレクションは、専用のセレクションクラスを設ける。出走人数が多くなる場合は、地区ごとの分割を行う。
・セレクション免除者は現状与えられている 60：30 とは別枠での出走とする。(ただし、あまりにも免除者の数が増えた場合には、全日本 21E 権所有者であっても何らかの制約を設ける可能性がある。)
・テレインコントロールは 1 年以上前から行う。インカレテレインとの関係性を考慮する必要はない。開催地が決定次第、日本学連幹事会に早い段階で連絡をしていただきたい。
・改革によって生じるグレーゾーンは基本的に拾い上げる方針(技術委員会が評価)
・参加費は学生の地区学連セレクション並みにとどめる。

・全日本 20E 権の今後の在り方については、一層の議論をしていく。
・公認大会はセレクション予備レースとなり、今後数が増えていくように JOA と協議していく(ただし、あまりにも数が増えるようであれば、セレクション予備レースとしての機能に対して何らかの制限を今後設ける可能性はある)。
・インカレで好成績を残したものは、全日本 21E 権や公認 21E 権をとることが可能になる。
・全日本 21E についての演出をこれから増やしていく。

今回の幹事会で、かなり全日本大会とセレクションの融合について、具体的な形が見えてきたと思います。改めまして、意見をくださった加盟員の皆様、幹事の皆様、JOA 木村様、ありがとうございました。おそらく、これで来年度以降セレクションを全日本大会で行うための枠組みは概ね完成したと思います。加えて、全日本大会や公認大会の在り方をより良くするべく、残りの幹事会では議論をしていこうと考えています。引き続き、よろしくお願い致します。

インカレリレー特例措置について

文責：小泉(日本学連幹事長)

【はじめに】

ここ数年、毎年インカレリレーでは日本学連の幹事会から実行委員会に対して、「特例措置」についてのお願いをしています。この特例措置とは、リレー競技選手権の部に参加しない加盟校・準加盟校で複数校にまたがって特例チームを結成し、リレー競技選手権の部に参加することができる、というものです。ここに、昨年度はインカレリレーに 3 人以上エントリーしている大学に対しても、メンバーの一部が実力を伴わない場合には利用できる、というようにしました。これらについては、臨時幹事会での決定後、10/31 までの加盟校の皆様に対するアンケートを実施し、今年度も実行委員会にお願いすることが決まりました。

この特例措置ですが、毎年使用しているので、すでにあるものとしての認識がなされているように感じます。事実今回のアンケートでも特例措置そのものについてはどの大学も異論はなかったです。これに対し、実行委員会側から毎年要請があるのであれば、いっそのこと規約を作ってほしく、また改めて特例措置の是非について話し合ってほしいとの連絡がありました。これらのことを受けまして、特例措置の在り方について、改めて議論をしたいと考えております。

ただなんとなく、「今あるから」という視点ではなく、インカレそのものの存在意義についても強く意識をしながら、議論できることを望みます。

【特例措置の扱いについての確認】

〇趣旨

インカレリレーは大学一位を決める場です。大学の総合力を試される場であり、そのためにチーム作りを一年間かけて行っている大学も多いことかと思います。一方、同時にリレーは観戦の要素が強くある物であり、「チームメンバーが目の前を走り、タスキをつなぐ」ということ自体が非常に盛り上がります。これらを目の当たりにし、同じ場を目指して一年間頑張ろう、と思う人も多いのではないでしょうか。そのため、必ずしも入賞を争うチームだけではなくとも、多くの大学がインカレリレーを楽しむことができていると思います。ここで問題となってくるのが、加盟人数が 3 人に満たない大学です。その大学はリレーのチームを出すことができず、このような感動を味わうことが難しくなることでしょう。

そのため、数年前から実施されているのが今回の議論の対象となっている「特例措置」です。これは、加盟人数が少なく、選手が集まらないために選手権の部に出場できない大学に対して、学生オリエンテーリング界の最高水準の競技レベルを経験する機会を提供する、ということが目的となっております。また、この制度を利用して実際に走った人から、「選手権の場で他大と争ったことで、改めて自分の大学だけでしっかりとチームを組んで同じ場に立てるようになりたい」と、より新歓活動を精力的に行うようになった、という話も聞きます。

ここに加えて、昨年度は「加盟人数は 3 人以上であり、かつエントリーも 3 人を超えているが、選手権クラスを完走しきるだけの実力を持ち合わせていない選手が含まれている」といった大学に対してもこの特例措置を行えるようにしました。今年度もアンケートの結果は、この方法で実施したい声が多くありました。

〇方法

・現状の特例措置に関するスケジュール

10~11 月に特例措置実施についてのアンケート(今後はもう少し早めます)

→賛成数が多い場合、実行委員会に依頼

→要項 2 に掲載

→特例措置を採用したい大学は、一緒にチームを組む大学とそれぞれエントリーでその旨を記載する

→リレー当日混成チームで出走、正式な記録とはならないが、入賞相当のタイムであれば特別表彰となる

・対象(2016 年度)
男女のどちらか(または両方)のエントリーが 3 名に満たない大学(基本)
エントリーが 2 名であるが、1 名のみ特例措置を使用する場合
エントリーが 3 名を超えているが、実力的に大学の中でチームを組んでも完走が困難であると判断される場合

〇論点
・本質
　そもそも、特例措置という制度が必要なのか、ということです。インカレリレーは大学一位を決める大会であるのにもかかわらず、大学をまたいでチームを組み、正式な記録にもならないチームが走ることで、その趣旨・権威が薄れてしまうのではないか、という意見になります(実行委員会の方もこの点は強調されています)。リレーに出られなかったこそ、翌年は絶対に出られるように新歓を全力でやる、というのが本来の選手権大会の形になるでしょう。ただ、それとは別にインカレリレーという場で大学を代表して走ることで、オリエンテーリングに対するモチベーションの向上につながる、というのも事実であり、そのためのチャンスを提供するという点で、特例措置は一定の影響力を持つかもしれません。

・スケジュール
　例年、10 月にこの特例措置についてのアンケートを行っています。しかし、要項 2 はインカレが行われる 3 月の 4 か月前、つまり 11 月中に発行しなければならなく、その直前に特例措置を使用したいとの連絡を受けるのは負担が大きい、とのことです。また、判断基準などが明記されておらず、特に昨年度からは複雑なお願いになってしまっているため、「明確な判断基準を設けてほしい」「連絡を早くしてほしい」との実行委員会からの要望がありました。後者については、幹事長がこれを実施するのを早めるようにすればいいので、大きな問題とはなりませんが、そもそも規約化がされればこのようなアンケートを実施しなくて済むことになります。そうすることで、規約を元に実行委員会はよりスムーズに運営の準備をすることができるようになるでしょう。

・対象
　2 年ほど前まではエントリー数が 3 名に満たない大学に対してのみ特例措置を実施していました。これについては、「人数の制約によって選手権の部に出場できない大学に対して、学生オリエンテーリング界の最高水準の競技レベルを経験する機会を提供する」という特例措置の本来の趣旨に反してはいないと思います。それに対し、3 名以上いるのに他大学とチームを組む、というのは、「やろうと思えば自分の大学だけで組むことができるのに、あえて他大学と組むのは、大学一位を決める大会の趣旨にそぐわない」という声がありました。また、アンケートでもこの点についてはある程度の制約を持たせるべきという意見も少なからずありました。ただ、完走する実力を持たない選手を選手権クラスに出走させるのは非常に危険である、というのも事実であり、この点についても同様にアンケートでも多く触れられています(その場合は実力相応のクラスに出るべき、という意見もありましたが)。

・表彰
　大学一位を決める大会、という趣旨から、大学を跨いだチームが正式な記録にならないのは仕方がないとは思います。ただし、そのチームが入賞相当のタイムを出した場合は特別表彰になる、ということは論点になると考えられます。確かに、全力で取り組んだ結果を無下に扱うことはできませんが、極端に言えば(特に 3 名以上のエントリーがあるにもかかわらず特例措置の使用を認めると)、速い人を集めて選抜チームを作って入賞タイムを出すということもできなくはありません。

【判断主体・判断基準】

・判断主体

現状、特例措置を使用する申請があった時に、基本的に基準に従っていればそれを通してはいますが、あいまいな申請があった場合の判断主体については決まっておりません。これについて、2015 年度のインカレリレー実行委員長に質問したところ、「基本は日本学連からの要望(＝判断基準)にあわせて申請を取りまとめ、基準から判断できない申請が来た場合には日本学連に判断を委ねる」ようにすると考えていたとのお答えを頂きました。私個人としては、これが一番妥当な結論か、と思います。あくまで、インカレ実施の主体は日本学連であるため、日本学連の決定こそが一番重視されると考えられるからです。

ただ、日本学連といってもその判断基準は二通りあり、幹事会か総会か、ということになります。とはいえ、総会は性質上年二回しか開くことしかできないので(臨時総会は不可能ではないが、集まりにくい)、アンケート形式になると考えられます。この判断主体を幹事会か総会(アンケート)のどちらにするかは、決定すべきことかと思います。

・判断基準

論点のところでも触れたように、判断基準(対象)をどのように置くかは議論が必要です。

・幹事長の考え

あまり漠然と議題を投げても議論がまとまり切らないかと思うので、幹事長である私の現状の考えを示しておきたいと思います。まず、判断基準については、2 年前までと同様に、「エントリー数が 3 名に満たない」というものをベースにしたいと考えております。それに対し、どうしても 3 名以上エントリーするが、特例措置を使用したいとの希望がある場合には、エントリー時にその旨と理由を記載し、それを受けた実行委員会の方から最終的な判断を幹事会・技術委員会に委ね、幹事会・技術委員会で諸般の事情を考慮しながら議論して結論を出す、というのが妥当かと思います。

後述しますが、規約化してしまうと、今後の変更はあまりきかなくなってしまいます。3 名以上いて特例措置を使うというのは去年初めて申請があったことであり、基本的にはそのような手段をとることはないと考えているため、個人的にはこちらをあえて基準にする必要はないと考えています。とはいえ、どのような事情があるのかわからないので、判断主体を幹事会や理事会という比較的議論の行われやすい(かつ、幹事会はエントリー締め切りとインカレの間に定例会がある)環境に委ねることで、柔軟な対応ができると考えたからです。こうすることで、現状想定できていない事案が発生したときにも臨機応変に対応できると思います。

【規約化】

実行委員会からの要請があったように、特例措置を規約化することで毎年の議論を省略することは確かにできます。しかし、特例措置は「あくまで例外である」という認識を常に持ち続ける事も大事ではないか、と先日の幹事会でも議論にあがりました。以下、規約化することのメリット・デメリットを考えられる限り、列挙します。

・メリット

毎年の議論の省略(例年、似たような結論が出されているのが現状)

明確な基準を示すことで、長期的な計画を立てることができる(加盟員が 3 名以下になると見込まれた段階から、他の大学とのチーム編成の交渉を早い段階から行える)

運営負担の軽減(アンケート回答をまたなくてよい)

判断主体や基準が明確になることで、対応などを決めやすい(インカレ実行委員会も幹事会も毎年メンバーが入れ替わるため)

・デメリット
一度決めてしまうと、変更が難しい(議論はいらなくなるが、毎年意見を聞く機会が失われる)
特例措置はあくまで例外、この制度があるからと新歓活動が甘くなる事態は避けたい
特例措置を適用したチームの結果は正式な記録にならない、これをインカレの実施基準に盛り込むことは可能なのか？

・折衷案
規約化、という強い決定ではなく、「特例措置に関するガイドライン」を作成する

【実行委員会からの意見】
　特例措置の是非と、規約化について実行委員会の方から意見を頂いたときに、以下のような点を指摘されました。例年特例措置があった私たちの世代からはなかなか気づきにくい観点のものが多くあります。口頭で頂いた意見もあるため、すべてを正確に表すことはできていませんが、参考資料の一つとして必ず参照するようにしてください。

・特例措置という考え方は、大学一位を決める最高基準の大会であるインカレの品位を落としてしまうことにつながらないか
・人が少ないからといって、出させてあげるための機会を作るのではなく、その大学は新歓を頑張るなどをして人を確保するための努力をする方が健全なインカレの在り方であるように考える
・特例措置を使うチームは人数のそろっていない女子チームが多いが、現状の女子の実力から考えるに、完走の危険があるチームをむやみに選手権クラスに増やしたくない(去年、実際にインカレリレー選手権出走者が民家に立ち入るなどの問題が発生した)
・現状、申請すればとりあえず通るという形になってしまう。「特例」ということを強調するためにも、特例措置を使用したい団体はいろんな機関(幹事会・理事会・技術委員会など)に承認を求めるべきではないか(規約化をするのならそういう風にしてほしい)
・今年度のようなやり方(3 人以上でも使用できる形)をする場合は、通常の選手権クラスとはスタート時間をずらす措置をとるなど、別枠の扱いにするかもしれない

【まとめ】
　以下が、話し合いをしていただいた上で、意見を頂きたい事項になります。
◎特例措置は必要か(選手権大会の趣旨を理解したうえでの議論を希望します)
・特例措置について規約化は必要か
・判断基準はどこにおくか
・判断主体をどこにおくか
・特別表彰を認めるか

　今年は色々と議論していただくことが多くなってしまい、大変申し訳ございません。ですが、インカレというステージの在り方について議論をするために、自分の団体・大学の利益にかかわらずに議論をしていただけるよう、ご協力の方を何卒よろしくお願い致します。

アンケート集計結果

　アンケートへのご協力、ありがとうございました。集計結果を以下に記します、今後の特例措置の議論の際に参考にしてください。

【回答を頂いた大学】(順不同)
名古屋　千葉　東京　農工　筑波　北海道　東工　十文字　大阪　東京理科　津田塾　椙山女子　一橋　宮城女子　東北　茨城　静岡　金沢　奈良女子　新潟　広島　福島　横市　京都女子　相模女子

①
賛成　25
反対　0

②(1)
賛成　18
反対　7

②(2)
賛成　25
反対　0

＜意見＞
①特例措置を認めるか
・賛成
　昨年と大きな変更はないし、エントリー数が多い方が大会が盛り上がる

　少人数大学でもエントリーできることが重要

　オープン扱いになり，表彰対象ではなくなるので，次世代への経験というものを残していく意味でも認めるべきという意見。チーム数ももちろん制限されるため，選手権を争っているほかのチームに対しても大きな影響がないと判断する。運営負担もあるようだが，昨年までそのように開催できていることも考えて今年も要望すべき。毎年の特例措置というのはいかがなものかということなので，規則化も考えるべき。

　めったにないと思うが、人数がいるのに実力がないから選手権の部に出れないという理由でない限り、マイナー校に関しては選手権の部に出れる実力のある人もいるため、他大学との混成チームで走れるようにするべきである。特別表彰はあるべき

　リレー形式の競技に参加できる良い機会だから。チャンスを与えたい。

　理由としては学生の数だけを理由として、チームを組めない大学の学生が選手権へ出場できないのは可哀想である。高校野球などでも人数の足りない高校が合同チームを組んで出場するケースもあるため、インカレリレーでも取り入れて当然だと思う。今後も毎年この件についての賛否を問うことになるのであれば、規約等に付け加

えることも考えて欲しい。

特別表彰はいらないのでは

②⑴3 名以上のエントリーがあっても特例措置を適用できるようにするか
・賛成
3 名以上のエントリーがあったとしても、初心者の 1 年生を含まなくては選手権出場がかなわない、等の事情の場合には許可を出していいのでは？逆に言えば、具体的にどこまで許可されるのかなどは、申請が出された段階でまた議論すればいい。

⑴,⑵とも認めないとするとあまり特例措置の恩恵がないと思われる。
また，⑵のみ認めるとすると，人数が 3 人の学校で一人エリートレベルの選手，2 人が新人（1 人はあまりインカレに乗り気でない）だとして 3 人出たままならそのエリートレベルの選手が特例措置の恩恵を受けられないから、新人一人が辞退して，2 人で出たほうがいいということになってしまいかねないと考える。
つまり，一人だけ参加人数が多いからと言って特例措置を使えなくなるのはおかしいのではないかと考える。

人数が足りなくて選手権クラスを走りたい人が我慢することになるよりも，走りたい人がすきなように走ることができればよい。複数校にまたがったとしても、選手権クラスを走るということがやる気の向上につながるのではないか。

もし 3 人以上のエントリーがあった大学がオリエン経験が不足している選手がいるという理由で、経験が十分な選手が選手権クラスに出場できないという事例は、部員が少ない加盟校が一定数いる現状では十分起こりえると思う。
そうなった場合、その選手が選手権クラスとかなり難易度の低い一般クラスに出た場合、その選手やチームメイトには不満を覚えるだろう。もし仮に選手権クラス出場を強行した場合、経験が不足している選手が帰って来れない危険もあり、運営側の負担を増やしてしまう可能性が高い。そのため、②についても認めた方が良いように思えるし、認めたところで大してデメリットはないと思う。

条件付き賛成。新たに加盟した大学の学生や加盟員の少ない大学などの学生が、一人でもリレー選手権に出られる機会が増えることでインカレ全体が活気づくと思う。しかし、選手権の特別性を保つためにも特例を認める条件を設けるべきだ。(ミドルセレの成績やインカレ出場選手の学年などで特例を使用できる明確な基準を作るなど)

人数制限は必要かと思う

・反対
リレーの人数が十分いる以上、完走が困難という理由で他大とチームと組むのではなく、おとなしく併設に出るべき、大学一位を決める大会の趣旨に反する、という意見があった

無制限に認めるべきではない

エントリーしている人が 3 人以上いるのに完走できないからといって他大学とチームを組むのは、選手権の部

で走りたい気持ちもわかるが、春インカレは大学内の色が出るため、大学内で実力を伸ばし合い、力を合わせて取り組むべきである

特例措置は元来、人数不足の大学を救済するための措置であるため、実力不足は特例措置 が救済対象とするものではない。少人数校でエリートに出走したい実力者は自校の新人を鍛えるべき。一般クラスの選択肢がある以上、あくまでも人数が足りているのであれば各校の中で調整すべき

大学を代表するということが重要、それについて選手権も一般もその大学に判断を委ねるべき

実力を伴わないのに走らせるのは危険

オリエンテーリングの経験が少なく、選手権クラスを走りきることができる可能性の低い選手を出走させることは、遭難など事故の危険性があるため反対である。また、捜索となると運営側にも大きな負担がかかってしまう。

インカレリレーは大学対抗戦であると考える為、実力がないとしても大学から３人以上出場しているならば、エリートチームは単一の大学で出場するべきではないか。
(※混成チームで出場する場合、なるべく学連内でチームを組めるならそちらを優先するように調整するべきではないか。そのチームが入賞できれば学連内のモチベーションにもつながると思われる。)

インカレリレー開催は３月であるため、新人さんであってもそれなりに競技をする機会はあると思うから。

②(2)2 名のエントリーのうち、片方のみ特例措置を使用することを認めるか
実力があるのに人数がいないために選手権の部に出れないのであれば、混成チームで出れるようにするべきである

どうしても人数が中途半端になってしまう場合があるので、少人数大学においては採用すべき。

一般クラスに出るかエリートクラスに出るかの選択権はそれぞれにあっていいと思うから。